令　和　４　年　１２月　８　日

京都府丹後農業改良普及センター

「降雪時の被害防止」技術対策について

日本気象協会からの発表によると、１２月 14 日に、大陸から強い寒気が西回りで流れ込み、寒波襲来の可能性があるとされています。丹後地域においても雪が降りやすい状況となり、降雪する恐れがあります。

つきましては、今後の降雪による農作物及びハウス等の被害を防ぐため、次の事項を参考に被害防止対策の徹底をいただきますようお願いします。

１　共通事項

降雪時の農地・農業用施設の見回りは気象情報を十分に確認するとともに、以下の点に注意しつつ、作業者の安全確保を最優先に行ってください。

（１）道路・ほ場周辺で、隣接する用水路、落差等がある場所には近づかない。
（２）見回りをする際には一人でいかない。
（３）滑りにくい靴を履く。
（４）倒壊の恐れのある施設には近づかない。
（５）ハウス等の雪下ろしを行う際には、ヘルメット等をかぶり、滑りにくい履き物を履くなどして複数人で作業を行う。
（６）悪天候時には作業は行わない。

２　作物（麦類）

事前の点検等

（１）融雪水がすみやかに排水されるよう、積雪前に排水溝、排水口を確認する。
（２）枕地の畝を作った場合には、畝を切ってほ場内部から直接排水口に繋がる排水溝を追加する。
（3）排水口を必ず額縁排水溝の底面より下にする（水田排水口は水稲の水管理用で高いことが多く、一般には切り下げる必要がある）。

３　ハウス園芸品目（野菜・花）

パイプハウスの雪害は、比較的気温が高く（０℃前後）、重い雪が激しく降り続いたとき（１時間当たりの降雪量が７～８㎝）に発生しやすくなり、特に積雪量が 15～20㎝を超えると被害が目立ち始めるため、事前にハウス内外の点検と備えを行い、雪が降り始めてからの対応を素早く行うことで、被害を最小限にとどめる。

事前の点検等

（１）被覆資材の破れや隙間の点検、補修等により、保温性向上に努める。

（２）ハウスの屋根中央等、積雪により荷重が集中すると思われる箇所を特に補強する（補強用の支柱を細かい間隔で立てる等）。

（３）基礎が腐食したパイプの交換や直管の筋交い補強等によりハウスの強化を図る。

（４）ビニールの外側にかけたままの遮光資材等は速やかに取り外す。

（５）当面作物を栽培する予定のないハウスでは、降雪前にビニールを外す。

（６）停電した場合に備え、かん水に必要な水を貯めておくほか、停電時に行う作業の内容及び手順、役割分担について確認しておく。予備電源については事前に動作確認を行っておく。

積雪時の対応

（１）雪が降り始めたときの対策の基本は、ハウス屋根の雪を早めに滑落させる。

（２）ハウスに内張を行っている場合には、これを開き、ハウスの屋根部分の温度を上げる。また、被覆資材や開口部の点検を十分に行い、ハウスを完全に密閉し、寒気がハウス内に入らないようにしましょう。

（３）降雪が収まった日中に雪が重くなって倒壊する事例が多いので、ハウス内への立ち入りは危険。雪おろしは原則ハウス外から行い、やむを得ずハウス内に立ち入る場合は、ヘルメットなどを着用し、きしみ音などの異常に十分注意する。

（４）屋根に積もった雪が滑落し側面に堆積して屋根に積もった雪と繋がると、屋根の上の雪が滑落しなくなるので、側面に滑落した雪は早めに除去する。

※ハウス軒下の積雪について

ハウスの軒下に積もった雪は、屋根に積もった雪の滑落の妨げになるとともに、ハウスの側壁に圧力を加え、被害を生じさせる場合がある。降雪前に被覆材を剥いだ場合でも、施設全体もしくはハウスの軒高を超える積雪があった場合、大きな被害を受ける可能性があるため、骨組が雪に埋没しないうちにできるだけ除雪を行う。湿った雪は骨組に付着するので注意。

（５）停電発生時には、予備電源の作動を行い、加温機等の起動を行う。また、養液栽培等で作物の萎れが予想される場合、あらかじめ貯水しておいた水を用いて速やかに手動によるかん水を行う。停電復旧後は、天窓やカーテン等が正常に作動するか確認する。

３　果樹

事前の点検等

（１）積雪に備えて事前に早期の摘果・せん定、支柱等による枝の補強、防風網や果樹棚、マルチ資材等の点検・補修・補強に努める。特に苗木・幼木や改植後間もない若木については、結束して樹冠を縮める、支柱により接木部を補強する等の対応を講じる。

（２）積雪時の野そ被害を低減するため、樹幹へのプロテクター等の巻きつけ、忌避剤の塗布や散布、殺そ剤の投与等によって対策を行う。

（３）寒害の恐れがある場合は、寒冷紗や不織布等で被覆し、樹体の凍結等を防ぐ。特に苗木、幼木や改植後間もない若木は寒さに弱いため、コモや不織布等で樹体を保護する対策を講じる。また、かん水が可能な場合は、土壌の過乾燥を防止するためのかん水を行う。

積雪時の対応

（１）安全が確保できる範囲で、樹園地を見回り、樹冠や枝条、棚上に積もった雪は早目に払い落とす。

（２）雪の重みで枝が折れた場合はできるだけ早くせん定し、切除面に癒合剤を塗布する。

４　茶

事前の点検等

（１）積雪による棚施設の破損や倒壊を防ぐため、事前に棚施設から被覆資材を撤去する。やむを得ず、被覆資材が撤去できない場合は、風で広がらないように強く縛って固定し、被害の軽減に努める。

（２）畝間・株元の敷草などにより土壌の乾燥や地温の低下を防ぐほか、防風網などの点検・補修・補強を行い被害の軽減に努める。

積雪時の対応

（１）降雪後、雪の重みのよって一番茶の摘採面が大きく乱れる場合があるが、茶株に乗った雪を急いで除去すると寒気に触れて、寒害にあう可能性が高くなるため自然融雪を待つ。

（２）融雪後、枝折れ等の被害を受けた枝の除去を行う。被害が大きく一番茶収穫が見込めない場合には中切りや台切りを行い、樹形の回復に努める。